日韓アジア基金　ニュースレター

カンボジアの子どもたちに教科書を

２０１４年１２月　No.５１

カンボジア便り

～目　　次～

カンボジア便り
識字学校卒業生、中学へ進学　１～２
国際児童画展・現地からの手紙　３
ボランティアさんの感想　４～７
スタッフ紹介　７
事務報告　８

大澤　龍

うれしいお知らせ
非正規識字学校卒業生、中学校に進学

当会は 2012 年から非正規識字学校(以下 NFEC)の運営支援をしています。

この学校は、当会が教科書補充支援をしている 11 校の内の一校、Prekchrey 小学校の校長先生が私的に開設したものです。

開設した場所は Prekchrey 小学校から 3km ほど離れた、小学生が通うには少し遠い地区です。またこの地域は貧困家庭が多く、小学生といえども家計を助けるために近くのゴミ山でゴミ拾いをしたり、畑の手伝いなどをしているため、学校に通う時間が取りにくいという問題がありました。住民から何とかしてほしいという要望があり、それに校長が応えたものです。

開設当初、教室の家賃は校長の負担、教員は校長一人だけでボランティアという体制でした。

みんな元気よく勉強しています

当会が支援したきっかけは、2012 年にあった洪水被害の調査にリティさんが 11 校を回った時、この校長から支援の要請を受けたからでした。

リティさんから報告・支援要請があった時、日本事務局は即座に支援を決めました。

理由は以下の二つです。

① 当会は過去に非正規識字学校を直接経営してい

たことがあり、その効果が良く分かっていたこと。

② 費用が月間 130 ドルで、当時の財政状況で支援可能だと判断したこと。

支援開始と同時に、今まで一クラスであったものを初級、上級の二クラスにし、教員も二人に増員しました。

そうして今回初めてここを卒業した子供９人の内８人が Tuol Ampil 中学校に進学することになりました。（あと１人の女生徒は結婚したそうです）

No.	氏名	性別	年齢	学年	通学方法	両親の職業	
						父	母
1	Chok Sopheaktra	男	13	7	兄のバイク	農業	農業
2	Khorn Chamnab	男	12	7	友人とバイク	農業	主婦
3	Chok Sreylin	女	12	7	兄のバイク	農業	農業
4	Ni Saroth	男	13	7	バイク	農業	農業
5	Sam Linu	男	13	7	バイク	ゴミ山拾い	ゴミ山拾い
6	Hourn Chetra	女	13	7	自転車	農業	農業
7	Art Sreyroth	男	13	7	自転車	死去	農業
8	Ty Savon	男	13	7	自転車	ゴミ山拾い	ゴミ山拾い

・7 年生というのは中学１年生です。

・中学校はこの地区から 6～7 ㎞あるため、通学には自転車かバイクを使います。

この表で意外だったのは、生徒の年齢が 12 歳、13 歳と全員中学進学適齢であったことです。

11 年前に我々が自前の非正規識字学校を経営していた時は、年齢と学年が一致していない子供が沢山いたのです。それだけカンボジアも社会全体が落ち着いてきたと言えると思います。

また表中に経済環境が厳しそうな家庭があり（例えば 5，7，8）、今後通学が続けられるか懸念しています。

校長先生のコメント

NFEC が出来るまでは、この地区の子供達は Prekchrey 小学校に通っていたのですが、距離の問題、家計の手助け仕事等があり、出席率は良くありませんでした。

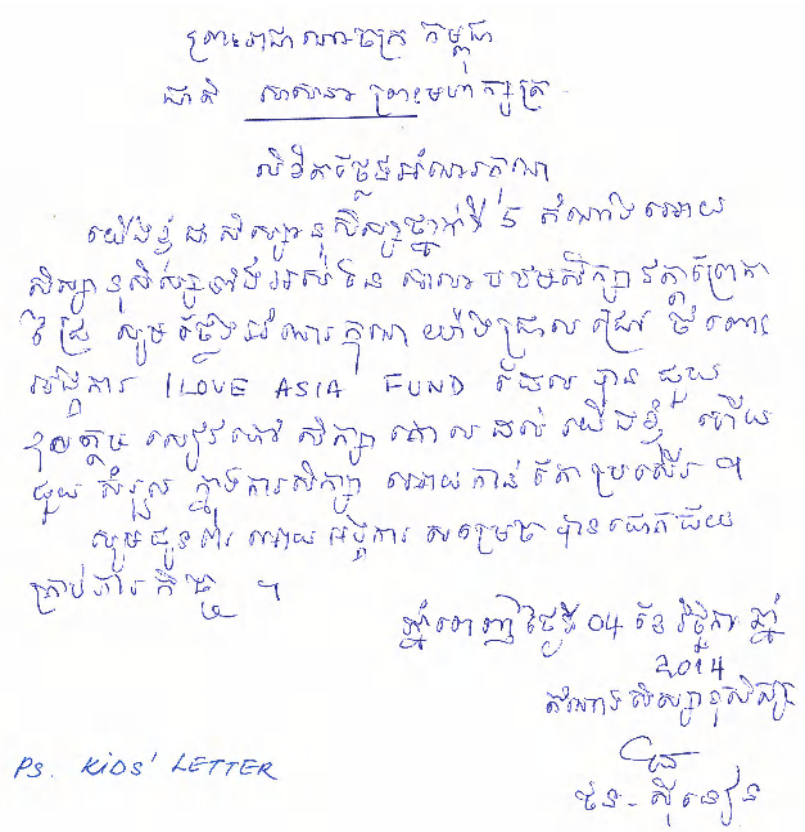
NFEC が出来たお陰で、仕事の合間に学校に来ることができるようになり、彼らが中学校に進むだけの学力を身に付けられたことを感謝します。

今年もカンボジアの子ども達の絵を国際児童画展に出品しました

江本　哲也

当会の長年のご支援者である柴田義之様のご紹介で、横浜市で開かれた第 19 回国際児童画展にカンボジアの子ども達の絵を出展し, 10 月 28 日の初日に二人で見てきました。今年のテーマは「**お休みの日（Holidays）**」で、昨年同様カンボジアからは 20 枚の出品がありました。どの絵も力作で、年々上達しているなと感心しました。その他の国の主なものはアメリカ、ブルガリア、日本 などです。カンボジアの子の絵を 2 点ご紹介します。

先日届いた支援に感謝するカンボジアの生徒たちの手紙です



感謝の手紙

Prekcherey 小学校の全生徒を代表して、私たち５年生一同は教科書を提供してくださっている日韓アジア基金の皆さまに、心からお礼を申し上げます。

教科書は私たちが勉強と知識を身につけることに大変役立っています。

私たちは日韓アジア基金の活動がうまくいくことを、心から願っております。

2014 年 11 月 4 日

全生徒を代表して

Thom　Sinean

ボランティアさんの感想

ニュースレター発送作業のボランティアに参加して

会社員 滑川　幹雄

ボランティアの朝は早い。
私の行いが悪いのか当日は朝から雨。
ボランティア開始時間前 30 分には到着したいので 7 時過ぎには家を出る。日曜日の早朝のせいかいつもは通勤の人が多いのだが、駅までの通勤経路に人が居ない。
アジア文化会館は三田線の千石駅が最寄りの駅だ。今まで 1 度も降りたことがないので、朝から迷わないように事前にグーグルマップで徒歩経路を確かめておいた。駅から地上に出るとアジア文化会館は簡単に見つけることが出来た。想像したより歴史を感じる建物である。入り口の案内所で本日の作業部屋を教えて頂く。
作業室に入ると日韓アジア基金のスタッフの方が慌ただしく準備をしていた。スタッフの方と簡単に挨拶を交わして本日の説明を受ける。その後すぐに簡単なニュースレターの仕分け作業に入った。

皆さんわき目もふらず作業中です

この日韓アジア基金のボランティアは、昨年同じ会社の宮川さん（定年退職しました）が参加した時にお話を聞いていました。ニュースレターの発送作業は定期的に開催されているとの事ですが、作業内容が年齢には余り関係なくお手伝いができる事、スタッフの方々に親切丁寧に作業指導をして頂け初めての者でも気軽に参加出来るのでお勧めです。その証拠に小中学生から定年が近い方まで参加されています。
作業開始前に参加ボランティアの皆さんの簡単な自己紹介が有りましたが、若い方のボランティアに参加する真剣な眼差しが素晴らしいと感じました。そして集まって来た方々との一体感も感じました。
この日韓アジア基金のボランティアは、2001 年に設立されてから今年で 13 年目だそうです。多くの方々の支援がなければ、どのボランティア活動も長続きはしません。13 年も続いていることが皆さんから認められている良い証拠でしょう。今後とも支援者への配慮や、ボランティア活動の実績を元に一層のご繁栄を願っています。また機会が有りましたら、参加をさせて頂きます。

私達の作る未来

～ボランティアスタッフとしてグローバルフェスタに参加して～　　社会人　田崎　美里

昨年は一般の客としてグローバルフェスタを訪れました。ボランティアではなくグローバルという点に興味があり参加したのですが、今年はボランティアスタッフの一員として参加させていただきました。というのも、沢山のボランティア団体がある中で、″韓国や日本

を始めとしたアジアの若者が、この日本という土地で一国の子供達の為に力を併せる"というのはこの日韓アジア基金だけと感じたからです。

隣国でありながらこじれる事の多い日韓。同じアジアでありながら国家単位では十分に歩み寄ることがまだ出来ていないアジア諸国。そんな国の若者が力を合わせアジアという地域の未来を憂い活動する。日本は一国であるけれど、アジアの一部でありまた地球の一部に過ぎない。未来は自分達で作る。そんな事を感じさせられた 2 日間でした。

初日の終わりに。皆さん良い笑顔ですね

今回は日中韓出身の学生を始めとしたメンバー構成で年齢層は様々でした。ボランティア経験の豊富なメンバーも居れば、今回が初めてと言うメンバーも居ました。私はどちらかと言うと初めてに近かったので、初日はどんな動きをすればいいのか右往左往していました。しかし各メンバーがそれぞれに良い案を出しすぐに行動に移してくださったので、自分の出来ることをすれば良いのだということに気付きました。1 人で出来ない事はメンバーに提案し助けてもらう。一人一人の力が 2 倍にも 3 倍にもなるのを実感致しました。　二日目は台風の影響もあって生憎の天気の中の活動となりました。会場自体に足を運んでくださるお客様も少ない中、少しでも当会の活動に興味を持って頂けるように一人一人に丁寧に話しかける。その心をモットーに宣伝活動を続けました。その甲斐あってか立ち止まって耳を傾けてくださる方や募金をしてくださる方もいらっしゃいました。支援の形は様々です。募金をする。話を聴く。ボランティアとして参加する。どれが正解なんてないと思います。でも、今回ボランティアとして参加した自分に拍手を送りたいと思います。これが私に合った支援の形だと言うことを発見致しました。当会の活動を元に知ったカンボジアの子供達の現状。未来ある子供たちには教育は不可欠です。そして力を合わせ個々の力を 2 倍にも 3 倍にも発揮したボランティアスタッフ。私達の作る未来は明るい。そんな期待を抑える事が出来ない今回のボランティア活動でした。

二日目：土砂降りの雨の中、あきらめずに頑張りました。

もっと何か出来る事があるのではないか。もっと必要としている事は無いのか・・・私の支援はこれが始まりです。今後も継続的かつ精力的に活動に参加して参りたいと考えております。

ボランティア×国際交流×巡り合い

～アジア文化会館「秋祭り」に参加して～　　学生　　井手由梨子

私にとって初めて参加させて頂いたボランティアが、このアジア文化会館での「秋祭り」です。

今回私たち日韓アジア基金のボランティアスタッフは、（"日韓の若者がアジアの恵まれない子供達の為に協働する"という理念のもと）カンボジアの子供たちに教科書を届けるために、秋祭りに訪れるお客様に韓国茶を無料で提供すると共に、教科書の募金活動や当会の宣伝活動を行いました。

この秋祭りでのボランティアを体験し、ボランティアとは単にミッションを熟す（こなす）「誰かのための活動」であるだけでなく、「人との出会い」や「新しい気づき」を与えてくれる機会でもあると気づかされました。

「人との出会い」とは、共に活動する仲間、似たような志を持つ仲間との出会いであり、日韓アジア基金のブースを訪れるお客様やアジアの学生との出会いを指します。

また、「新しい気づき」とはボランティア活動を通して、そして海外の人と交流することで、今まで気が付かなかったことに巡り合えるということです。

特に、カンボジアの子供たちに教科書を支援するということから、私たちにとって今日の日本の教育環境や現状を必然的に振り返る良い機会となりました。小学生の頃から、教科書を手にすることは自明のことであると思い育ってきた私たちです。何不自由なく学ぶ環境に身を置いてきた私たちからすると、なかなか教科書を貰うことに感謝の意を示すなど、もはや忘却の彼方にありました。何事においても、当たり前のことだと思わずに感謝の気持ちを忘れてはいけないと痛感させられました。

そしてもう一つ、アジアの人と交流することで、私たちの間に存在するとされる「壁」とは何かを考えさせられました。

私たちは生まれ育った環境と文化、用いる言語が異なるだけで、同じ人間であることには変わりありません。あるとしたら、そのような環境と文化の違いを示す壁です。そして、今まで築きあげられてきた歴史が今日のアジア諸国にぎくしゃくした関係をもたらしていると考えられます。確実に言えることは、今回の秋祭りにおいては壁というものは見えなかったということです。もしかしたら私たちは、単なる見えない壁をあたかもあるように仕立てあげているだけなのかもしれない、そのようにも錯覚しました。

このようなことから、今後私たち若者がより良い未来作りのために出来ることは、国や文化の壁を取り払い、もっと面と向かって色んな考えを持った人と向き合うことではないかと考えさせられました。恐らく向き合った分だけ、互いに理解は深められると思います。

ボランティアとは、無償で働くものの、決して相手に何か与えるだけの活動ではありません。活動する側の私たち自身も得られるものは沢山あるのです。初めてボランティアを体験した私にとって、このことが大変大きな収穫となりました。

ＰＲ活動、募金活動、それぞれに成果がありました

スタッフ紹介

人と人とのつながりと温かさを実感して　　田崎　美里

支援者の皆様初めまして、今回スタッフ登録を新たにさせていただきました田崎美里（たさき　みさと）と申します。宜しくお願いいたします。

私が日韓アジア基金と出会ったのは数年前にビビンの会に参加させていただいた事がきっかけでした。既にスタッフとして活躍していた小森さんからのお誘いで参加したのですが、それまでの私はカンボジアという国もそうですがボランティアにさえ興味がありませんでした。その後ビビンの会で仲良くなった方々とプライベートで交流するようになり、顔なじみになった方が日韓アジア基金のボランティアスタッフとして「グローバルフェスタ」のブースに立つと聞き、そこに立ち寄ったのが２年前でした。それまで私と直接触れることのなかったボランティアという世界との出会いでした。

今年は「グローバルフェスタ 2014」と「アジア文化会館祭り」にスタッフとして参加させていただき、その都度、人と人との出会いやつながりの温かさを実感しております。

私が日韓アジア基金のスタッフとして支援者の皆様のお目にかかれたのも何かのご縁かと思います。ボランティアという垣根を越えて私自身の興味の追求とより良い世界の実現に向けて微力ながら活動してまいりたいと思っております。

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略・五十音順)

2014 年 9 月 7 日 ニュースレター50 号 発送作業

今治 将輝・河村 桂渡・木原 真理・小山 卓也・篠原都・鷹野 竜・高野 久美香・千葉 真由美・張 紫晴・土田彩加・土田 花菜・内藤 千尋・滑川 幹雄・水越 誉純・吉田將吾(15 名)

2014 年 10 月 4 日・5 日 グローバルフェスタ JAPAN2014 ブーススタッフ

大川飛揚・大高るな・川口拓也・北出珠瑚・金秀妍・榊原敬治・査理・清水花怜・田崎 美里・萩原ちか・早川光樹・星野廣平・三橋京香・峯翔太・羅麗雅・李正賢・若松 晴美(17 名)

2014 年 10 月 25 日 ABK 秋祭り 2014 ブーススタッフ

安部 雄大 ・井手 由梨子・河村 桂渡・小宮 友輔・須藤 智也・高橋 智喜・渡辺 麻由子
(7 名)

2014 年 8 月 25 日～2014 年 11 月 29 日に会費・ご寄付を下さった方 (敬称略・五十音順)

市井 秀治	小原 勝子	国重 純子	武之内 教男	福本 正勝	渡邉 京子
井上 卓也	語ろう会	小久保 多美子	波多野 淑子	細川 武・敦子	
岩見 豊子	加留部 南洋	斉藤 淳	平島 清行	松本 昌幸	
大塚 紀子	工藤 早苗	神保 国男	福島 忠男・シゲ	森 健造	

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
法人会員:年会費1 口10万円
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

＜郵便振替口座＞
口座番号 00180-2-25153
口座名 日韓アジア基金

・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権があります。
・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。
ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

＜お問合せ先＞(日本語でお願いします)
〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内
Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)
E-メール: jkaf@iloveasia2.sakura.ne.jp
HP: http://www.iloveasiafund.com

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也